

# 徳善寺だより

第4号 平成15年 5月

桜の花びらも散り、夏の足音がだんだんと近づいてまいりました。

先日、お参りの際、ほととぎすの鳴き声を聞きました。あまりにきれいな鳴き声でしたので、10分ほど車の窓を開けてききほれていました。普段あまり自然に接してない私にとって、ほんの10分でしたが心に穏やかな風が吹き込んできました。それと同時に、「時間のたいせつさ」というものを改めて実感させていただきました。普段は何気なく過ごしていた時間が、ほととぎすによって、貴重な時間を過ごさせていただいた、我々の人生「時間」というものをもう一度考えさせられたような気がします。

私も徳善寺にきて、はや一年が経ちました。会社とお寺との兼業で、ご門徒の皆様には、行き届かないところが多数あると思いますが、皆様の協力があつてなんとか過ごさせていただいております。三月の彼岸法要には、たくさんの人が集まって下さり、ありがとうございました。これからも益々精進いたしますのでよろしくお願いいたします。

合 掌

## ○ お 知 ら せ

### ☆ 永 代 経 法 要

5 月 3 0 日 2 時 よ り

於 徳 善 寺

読 経 ・ 焼 香 ・ 法 話

## ○ お 礼

去る3月15日、営みました『彼岸法要』には門信徒の皆様のご多数のお参りをいただき、ありがとうございました。表現は適当ではありませんが、久方ぶりにお寺

に賑わいを感じました。総代一同感謝感激におります。

今後ともよろしくおねがいたします。

総代一同

## ○ 永代経法要について

浄土真宗における永代経は、年忌などを一つの機縁として亡き人のご苦勞を偲び、自分の今日ある姿に感謝するとともに、この永代経法要を通して、代々に渡って伝えられてきたお念仏のいわれをさらに深くたずね、聞法させていただく法要です。報恩講に次いで、大切な法要ですので、ご門徒の皆様方、お寺に足をお運びするようよろしくおねがいします。

## ○ 一語法話 合掌とは

合掌は、仏教徒の基本的な作法です。

心から相手、とりわけみ心に尊敬をささげるという意思表示です。この作法は、仏教とともに日本に渡ってきました。日本だけでなく、東南アジアなどの仏教国で、この動作が日常的に使われているのはよく知られています。

昔からインドでは、左手は、みにくい自分のありのままの心をあらわし、右手は神聖なものをやどす場所と考えられてきました。その左と右の掌がぴったりとあうのです。みにくい自分と神聖この上ないもの（み仏）との「調和」を表現したものと考えていいでしょう。亡き人と一つになった世界と理解をひろげていただいても差しつかえないのです。

ですから、霊前に礼拝するときは、かならず胸前で静かに合掌してください。やたらとすり合わせたり、数珠をもんだりするのは明らかに間違いです。

## ○編集局後記

この前まで今年の冬は寒いと思っていましたが、今日この頃、晴れの日には20度を越す気温となります。

新緑が美しく、平戸つつじや、さつきが咲いていて、ほんとうにいい季節となりました。年寄りの私にも、どこか心躍る思いがするようになりました。

皆様のご活躍お念じ申し上げます。

合掌